

## 生まれ変わる「きべりはむし」と「佐用町昆虫館」

野山に生気がよみがえる季節を迎え、虫たちとの再会を心待ちにしておられる方も多いことと思います。

2009年、「兵庫昆虫同好会」と「NPO法人こどもとむしの会」との共同により、5年ぶりに「きべりはむし」が再発行されました。この度、引き続き第32巻2号が発行されますことを嬉しく思います。今号から「きべりはむし」はオンラインジャーナルとしてスタートするとともに、ISSN（国際標準逐次刊行物番号）の申請も行い、名実共に兵庫県を代表する昆虫雑誌を目指します。

「きべりはむし」は兵庫県に生息する昆虫類の分布や生活史に関する情報を蓄積し、兵庫県の豊かな自然の保全とそこに生きる昆虫類の保護を目的として発行されてきました。生物多様性の保護がかってないほど世界的な関心を集める昨今ですが、そのためには先ず地域の正確な情報の収集とそれに基づく的確な対応が不可欠といえます。その意味でも、兵庫県の昆虫多様性の情報誌である「きべりはむし」の役割は今後益々重要になると思われます。皆さんの積極的な情報提供を期待しております。

「NPO法人こどもとむしの会」の最大の事業は、指定管理者としての「佐用町昆虫館」の管理・運営です。ご存知の通り、2009年4月に開館し、会員の献身的な努力により順調に運営し、来館者の子供たちやご家族の方々にも喜んでいただけていました。しかし、8月9日夜半の集中豪雨による土石流の直撃を受け、昆虫館は土砂に埋まり閉館を余儀なくされました。当初再開館が危ぶまれる状況でしたが、多くのボランティアの人たちのご助力と会員の努力により、2010年4月に再開できる見通しとなりました。佐用町の特別なご配慮と多くの皆様から寄せられた復興義援金により、昆虫館は美しく生まれ変わります。昆虫館に再び活気が戻り、未来の「きべりはむし」執筆者が育つことを願っております。

神戸大学名誉教授  
NPO法人こどもとむしの会理事長  
内藤親彦